本島北部及び周辺離島

伊平屋村
伊平屋島
野甫島
伊是名村
伊是名島
玉御殿 (P30-31)
銘苅家住宅 (P28-29)
屋那覇島

今帰仁城跡 (P32)
伊江村
伊江島
伊江島空港
水納島
瀬底島
本部町
瀬底土帝君 (P24-25)
屋部の久護家 (P33)
津嘉山酒造所施設 (P26-27)
恩納村
金武町
伊芸S.A.
金武I.C.
屋嘉I.C.(那覇方面のみ)
石川I.C.
読谷村

N
大宜味村役場旧庁舎(P22-23)
国頭村
大宜味村
東村
今帰仁村
名護市
宜野座村
宜野座I.C.
許田I.C.
58
331
505
329
道路凡例
国道
県道主要地方道
県道一般道
高速道路
市町村境界線

国指定重要文化財（平29.2.23）

大宜味村役場旧庁舎

建造物 大正時代に建てられた鉄筋コンクリート建造物の傑作

大宜味村役場旧庁舎

大宜味村役場旧庁舎は大兼久の集落内にあり、1925（大正14）年に竣工し、1972（昭和47）年まで村役場庁舎として使用されていました。

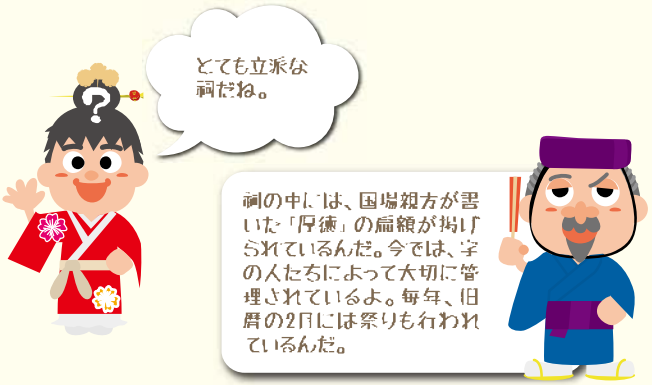
設計は「沖縄コンクリート建築の父」と呼ばれる熊本県出身の建築家清村勉（1894～1985年）です。氏は、台風や白蟻の対策として、まだ本土でも普及していなかった鉄筋コンクリート造を採用しました。また、これまで尺貫法の寸法で設計していた建物を、メートル法で設計・施工しており、沖縄県における鉄筋コンクリート技術を研究する上で貴重な建物です。屋上にある八角形の部分は、村長室として使われました。

内部の様子

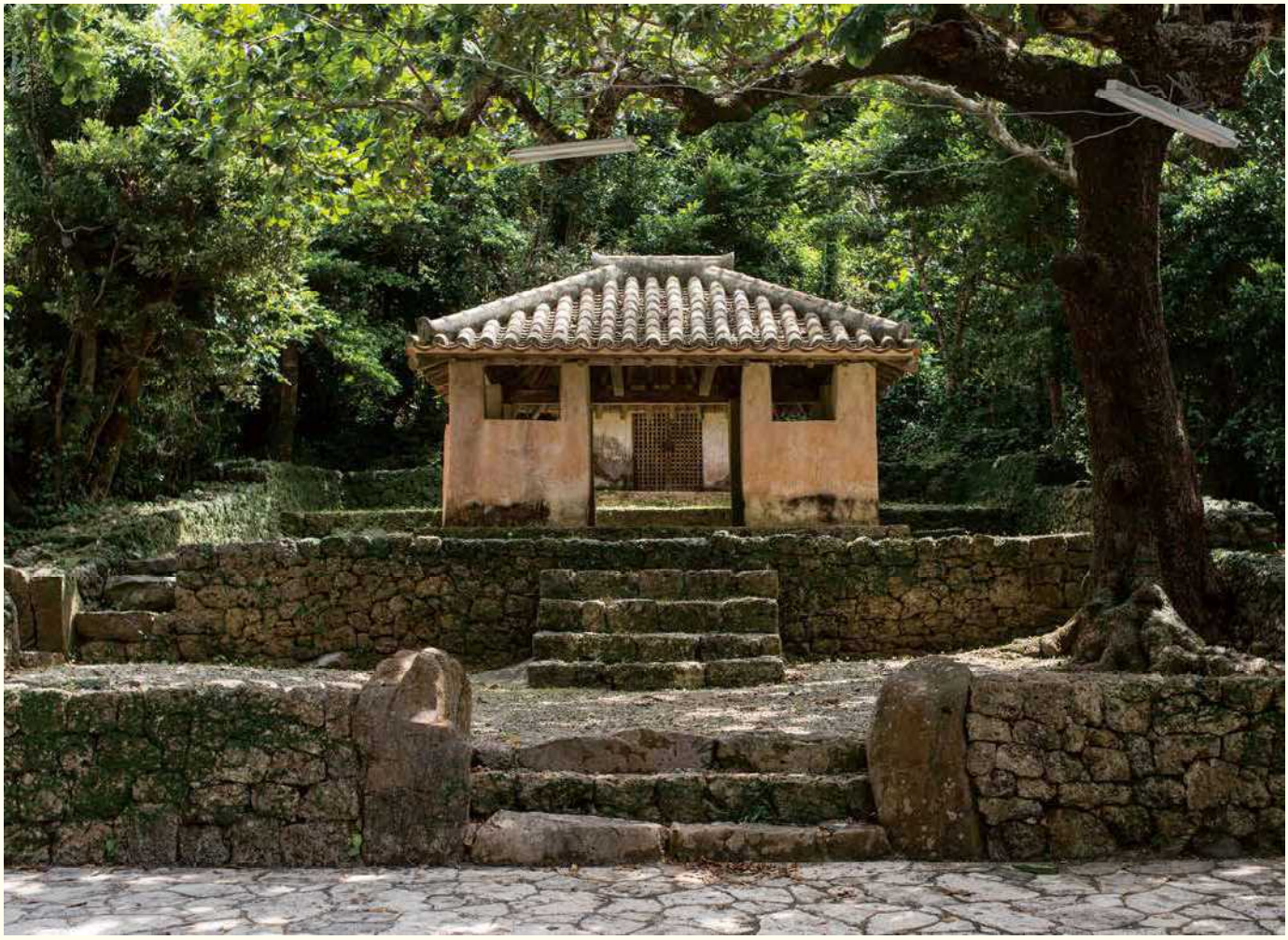
26°42'06.3"N　128°07'13.4"E

国指定重要文化財（平9.12.3）

瀬底土帝君



建造物 農業の神様を祀る18世紀の建造物



前庭・拝殿（正面）

土帝君は古代中国の土地関係の神の一種で、一般に土地神と呼ばれています。瀬底土帝君は農業の神様で、上間家二世健堅親雲上（1705～1779年）が若いころ山内親方に付いて清国に渡った時に農神土帝君の木像を持って帰り、祀った場所です。瀬底島のほぼ中央にあり、野面積みの石垣で囲んだ前庭（メーナー）、拝殿、本殿が一直線上に段差をつけて配置されています。土帝君は沖縄各地に祀られていますが、そのほとんどが石造りの小さな祠で、この土帝君は県内で最大級です。拝殿は、寄棟造りの赤瓦葺き屋根を、サンゴ石灰岩を切り出した10本の柱で支えています。柱の間は切石の腰壁です。本殿は、方形赤瓦葺きの屋根を漆喰仕上げの切石の壁に乗せるなど、構造的特徴があります。

拝殿

土帝君の祀られた本殿
（拝殿の後方）

26°38'37.4"N　127°51'53.3"E

国指定重要文化財（平21.6.30）

津嘉山酒造所施設

見学もできるんだね。ていねいに解説してくれたから、とてもわかりやすかった。

戦後はアメリカ軍の施設として使用されたんだ。そのとき使用した部屋には、英語で部屋の名前が書かれているのが残っているよ。また正門や塀、庭園なども保存されているよ。

建造物 昭和初期に建てられた現役の酒造所

主屋（ウフヤ）

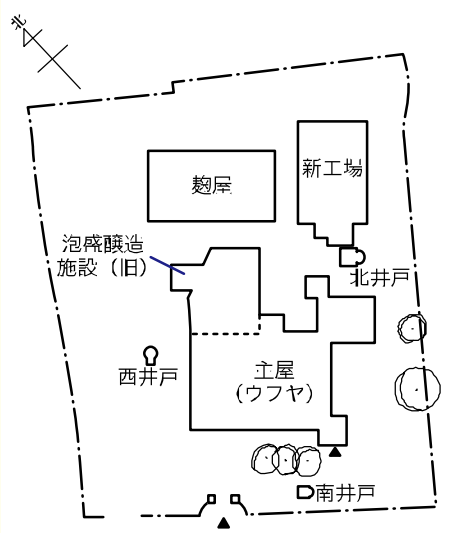
津嘉山酒造所施設は1927～1928（昭和2～3）年に建設された、名護市街にある現役の泡盛醸造施設です。施設は、泡盛醸造施設と居住を一体とした独特な構成の主屋（ウフヤ）と、その背後の麹屋からなり、昭和初め頃の酒造施設の状態を保っています。当時の泡盛製造工程を知ることができる貴重な施設です。戦後は米軍に接収され、パン工場などに使われていた時期もあります。敷地は長方形で、南側が通りに面しています。その中央に正門を構え、南側中央に主屋（ウフヤ）、北に麹屋を配置しています。

居住部分は、伝統的な平面構成を受け継いでいますが、離れや玄関には上質な敷居飾りを設けるなど、近代的な造作も取り込まれており、沖縄県における住宅の歴史を知る上で貴重な建物です。

泡盛醸造施設

麹屋

泡盛醸造施設



26°35'29.4"N　127°58'59.5"E

国指定重要文化財（昭52.6.27）

銘苅家住宅

屋敷囲いの石垣は、布積みと相方積み、そして野面積みと、三つの技法で積まれているんだ。

ヒンプンは粟石で屋根付きだよ。天井や衝立は古い形式で、長押などは細かい技法が施されているよ。

建造物 上級士族の格式をあらわす旧宅

銘苅家住宅（正面）

銘苅家は第二尚氏王統、尚円王の叔父の子孫で、総地頭職を勤めた家柄です。建物は1906（明治39）年に建て替えられ、高倉やフールと呼ばれる豚小屋と便所を兼ねた建物などもありましたが、現在は主屋（ウフヤ）とアサギだけが残っています。主屋（ウフヤ）は敷地中央に南向きに建てられ、その東南にはアサギが西向きにあり、2つの建物は屋根でつながっています。伝統的な沖縄の建築様式ですが、台所（トングヮ）の外壁が漆喰塗りで、沖縄では数少ない例となっています。

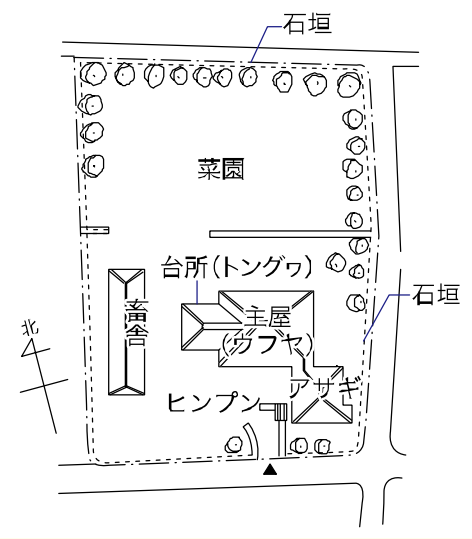
ヒンプン（左奥は主屋（ウフヤ）・右奥はアサギ）

屋根のシーサー（主屋（ウフヤ）

中央：主屋（ウフヤ）　左：台所（トングヮ）　右：アサギ

石垣（布積み）

内部

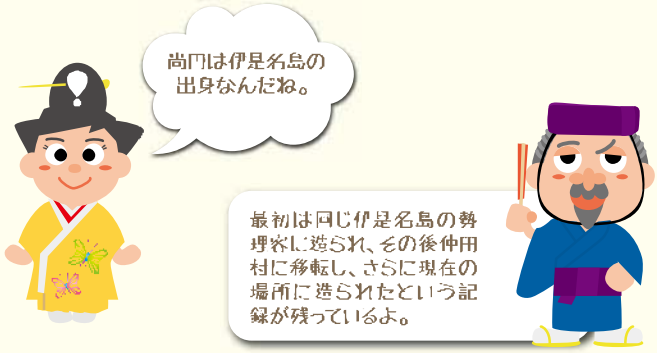


※屋内は立ち入り禁止です。

26°55'03.6"N　127°56'04.9"E

国指定重要文化財（平29.7.31）

玉御殿



建造物 尚円王の父や、その夫人などが眠る陵墓

玉御殿全景

伊是名城跡の北面中腹にある、第二尚氏王統の陵墓です。尚真王代、首里の玉陵を造営した直後に築造されたと伝えられています。屋根は梁石を棟木として架け、平たい石を葺いた破風型で、外面は全面漆喰塗りになっています。墓域の面積は約200㎡で、12段の階段を上ると、石造アーチ門に両開きの木製格子扉があります。その内側には、更に2段の階段があり、墓庭につながっています。墓室は2つあり、正面に向かって左側には尚円王の父とその夫人、姉、先祖を、右側には代々の伊平屋の神女（アムガナシ）を葬っています。

伊平屋の神女が葬られた墓室(右側)

隅頭石

尚円王の父などが祀られた墓室(左側)

石造アーチ門と格子扉

※墓域は立ち入り禁止です。

26°55'42.4"N　127°56'28.3"E

県指定有形文化財（昭37.6.7）

今帰仁城跡

国の史跡にも指定されているね。春先に咲く桜もきれい！

石垣は古期石灰岩というとても硬い岩を手ごろな大きさに割って積み上げたもので、とても立派で優美な姿だよ。隣にある今帰仁村歴史文化センターには今帰仁グスクのいろいろな資料が展示されているから、そこも見に行ってほしいな。

造建物 14世紀ごろ山北王の居城として築城されたグスク

今帰仁城跡

城壁

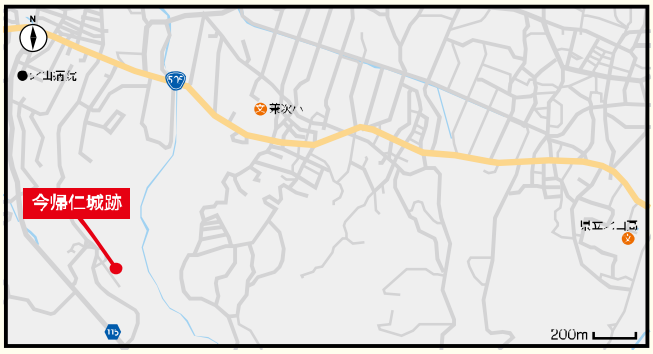
城壁

今帰仁城は琉球が三山時代の頃、沖縄島北部地域（山北）を治めていた王の主城であったことから北山城とも呼ばれています。

標高約100mの古期石灰岩の丘の上に築かれている古城で、建築年代は定かではありませんが、琉球の歴史書『中山世鑑』『中山世譜』によると、1383（洪武16）年に怕尼芝という人物が城主になったとされます。

北と東の渓谷にはさまれ、総延長1500mの城壁で囲われた堅固な城です。10個の郭からなり、城門から本丸まで石畳道で結ばれています。

城壁は他の城と異なり、古期石灰岩で築かれていることや規模が大きいことから、この時期の土木技術を知ることが出来る貴重な城跡です。

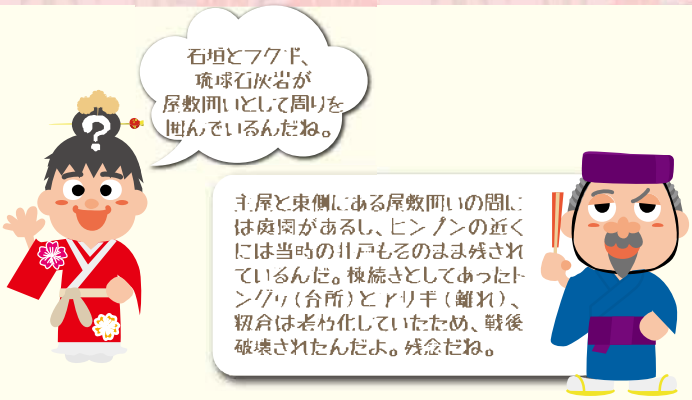


※一般公開しています（有料）。

26°41'27.9"N　127°55'46.9"E

県指定有形文化財（昭48.3.19）

屋部の久護家



建造物 沖縄の古民家としては最大級の屋部の旧家

屋部の久護家

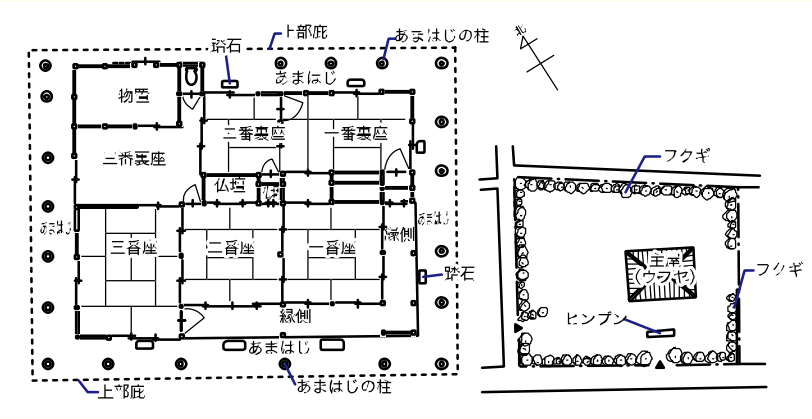
久護家は屋部の久護集落にあり、屋号がそのまま集落名になったほどの旧家です。

1906（明治39）年に建築された主屋（ウフヤ）は南に面して建ち、寄棟造り赤瓦葺き屋根で、雨端は深く裏側までまわしてあります。間取りも広く、この地方の豪農の住宅様式を備えています。

屋敷の面積は2310㎡（699坪）で、沖縄の古い民家では最大級です。南側に門、正面には切石積みのヒンプン、周囲はフクギ等で囲まれています。1991（平成3）年に主屋（ウフヤ）の保存修理工事が行われました。

ヒンプン

雨端



※民家なので敷地内の見学はご遠慮下さい。26°36′10.26″N　127°57′15.23″E